

政策体系	政策No.	4	政策名	育み磨きあうまちづくり			施策主管課	教育総務課		
	施策No.	2	施策名	青少年の健全育成	重点施策		施策主管課長名	本村 成明		
施策関係課名	総務課、安心安全課、学校教育課、保健体育課、生涯学習課、文化振興課、国分中央高等学校									
1 基本計画期間(平成25年度～平成29年度)における施策の方針										
<ul style="list-style-type: none"> <li>■「霧島錦江湾国立公園」をはじめとする本市の自然環境を活かした異年齢による体験活動等を通して、心と体のバランスがとれた「きりしまっ子」を育成する。</li> <li>■次代を担う青少年が、地元の先輩たちに学び、夢や目標を持ち、努力する心を醸成する。</li> <li>■家庭の教育力を高めるとともに、地域ぐるみで青少年を育成する気運を醸成し、地域全体の教育力を高める。</li> </ul>										
2 施策の目的と成果把握										
① 対象 (この施策は、誰、何を対象としているのか)		青少年								
② 対象指標 (対象の大きさを表す指標)		単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
A	青少年の人数(6～18歳の人口)	人	見込み値	17,590	16,978	17,424	16,686	16,584	16,482	
			実績値	17,513	17,316	17,149	17,095			
B			見込み値							
			実績値							
C			見込み値							
			実績値							
③ 意図 (この施策によって対象をどう変えるのか)		心身ともに健全な成長をする								
◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%～105%未満) △目標を未達成(95%未満)										
④ 成果指標 (意図の達成度を表す指標)		単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
A	学校外活動を行う青少年団体に加入している児童生徒の割合	%	成り行き値		53.0	52.5	52.0	51.5	51.0	
			目標値		53.5	53.5	53.5	53.5	53.5	
			実績値	51.5	49.3	46.9	45.3			
			達成率		92%	88%	85%			
結果		△	△	△						
B	中学2年生のうち、社会のルールやマナーを守っていると回答した生徒の割合	%	成り行き値		75.5	75.5	75.5	75.5	75.5	
			目標値		76.5	77.5	78.5	79.5	80.5	
			実績値	93.9	97.5	95.8	97.0			
			達成率		127%	124%	124%			
結果		◎	◎	◎						
C	青少年が他人に迷惑をかけるという行動が、以前に比べて減ったと考える市民の割合	%	成り行き値		16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	
			目標値		17.0	18.0	19.0	20.0	21.0	
			実績値	16.8	19.2	16.9	17.5			
			達成率		113%	94%	92%			
結果		◎	△	△						
⑤ 成果指標の測定方法 (実際にどのように実績を把握するか)					⑥ 平成29年度の目標値設定の考え方					
A 校外活動を行う青少年団体に加入している児童生徒の割合 B 中学2年生のうち、社会のルールやマナーを守っていると回答した生徒の割合 ※中学2年生へのアンケート調査 C 青少年が他人に迷惑をかけるという行動が、以前に比べて減ったと考える市民の割合 ※総合計画進行管理に係る市民意識調査					A 「学校外活動を行う青少年団体に加入している児童生徒の割合」については、今後も都市化や少子化の進行により青少年団体への加入率の減少が考えられるが、子ども会やスポーツ少年団等の活動を活性化することで、現状維持に努める。 B 「中学2年生のうち、社会のルールやマナーを守っていると回答した生徒の割合」については、規範意識の高揚が現代社会の直面している社会的課題であることから、関係機関と連携した児童生徒の校外生活指導を充実するとともに、地域ぐるみで子どもを見守りながら、平成21年度実績値の75.5%から5ポイント改善することを目指す。 C 「青少年が他人に迷惑をかけるという行動が、以前に比べて減ったと考える市民の割合」については、規範意識の高揚が現代社会の直面している社会的課題であることから、関係機関と連携した児童生徒の校外生活指導を充実するとともに、地域ぐるみで子どもを見守りながら、平成23年度実績値の16%から5ポイント改善することを目指す。 D E F					

**3 基本計画期間で解決すべき施策の課題(総合計画書より)**

- 心と体のバランスのとれた「きりしまっ子」を育てるため、豊かな自然環境の中で、様々な体験活動を行う必要がある。
- 青少年団体等への加入率が低くなってきているため、加入促進に努める必要がある。
- 子どもたちの地域行事への参加促進を図る必要がある。
- 子どもたちが将来の夢に向かって努力する精神を醸成していく必要がある。
- 家庭でのしつけを徹底するとともに、学校応援団活動の活性化を図ることで、地域の教育力を高めていく必要がある。

**4 施策の特性・状況変化・住民意見等**

**① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による市民と行政の役割分担)**

ア) 行政の役割 (市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)	イ) 市民(住民、事業所、地域、団体等)の役割
<ul style="list-style-type: none"> <li>■研修の機会及び場を設定し、指導者を育成する。</li> <li>■青少年育成団体への指導、助言を行う。</li> <li>■学校や地域との連携を図る。</li> <li>■青少年を健全に育成する気運を醸成するため、広報、啓発活動を行う。</li> <li>■各種団体と連携し、非行の未然防止を図る。</li> <li>■青少年育成事業の充実・推進に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■家庭                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年育成団体の価値を認識する。</li> <li>・各家庭内での教育(しつけなど)の充実を図る。</li> <li>・地域の行事に家族そろって参加する。</li> </ul> </li> <li>■地域・団体等                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館行事の中で青少年に役割を与える。</li> <li>・地域の子どもたちは、地域で見守る観点から、積極的に声かけを行う。</li> <li>・異なる青少年育成団体の育成者同士が連携を図る。</li> <li>・学校、家庭、地域の連携を密にし、「学校応援団活動」へも積極的に参加する。</li> </ul> </li> </ul> <p>※学校応援団活動…学校の教育活動に対して、地域の方々ボランティアとして支援にあたること。</p>

**② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?**

- 少子化、共働きの増加や国際化等による社会情勢の変化により、今後ますます青少年を取り巻く環境が厳しくなることが予想される。
- 都市化の進展により、地域ぐるみで青少年を育てようという気運が薄れてきている。
- 市内の都市化の進展や郊外型大型店舗の増加により、青少年の非行増加が懸念される。
- 平成27年度から改正道路交通法により、自転車運転に対する取扱いが強化された。

**③ この施策に対して市民(対象者、納税者、関係者等)、議会からどのような意見や要望が寄せられているか?**

- 自転車の二人乗り、並進など、交通マナーが悪いとの声が寄せられている。
- 議会から郷中教育の具体的実践を求める声がある。
- 子どものしつけなど子育ての悩みを訴える市民が増えている。

**5 施策の現状**

① 平成27年度施策の取組方針	② 平成27年度施策の取組方針の達成状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>■志を育む事業を継続し、きりしまっ子立志10年カレンダーの活用の充実を図り、立志塾については内容の充実を図る。</li> <li>■地域で育てる青少年健全育成事業を継続し、校区ごとで青少年の健全育成を図る。</li> <li>■心と体のバランスのとれた「きりしまっ子」を育てるために、本市の豊かな自然や文化を活用した各種体験活動を充実する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「きりしまっ子立志10年カレンダー」を小学校新1年生、及び小、中、高の市外からの転入生に配布したことで、児童生徒に将来の夢や目標について考える機会となった「きりしまっ子立志塾イングリッシュサマースクール」に中学生39人が参加した。参加者のアンケートによると、「英語や異文化への興味・関心が高まった(100%)」「英語によるコミュニケーションを取ることができた(94%)」「将来の自分自身について考えた(86%)」との結果であった。</li> <li>■地域で育てる青少年健全育成事業に22団体の参加があり、あいさつ運動やPTAによる交通安全指導や声かけ運動、地域活動など青少年健全育成が図られた。</li> <li>■本年度から低学年とその保護者を対象にした事業を実施し、自然体験の重要性を周知したり、家庭での体験活動の普及のきっかけづくりを行うことができた。</li> </ul>

**③ 平成27年度施策の目標値と実績値の比較**

- 目標達成 ◎ 105%以上
- 目標をほぼ達成 ○ 95%~105%未満
- 目標を未達成 △ 95%未満

平成27年度成果指標				結果
目標値	実績値	達成率		
A	53.5	45.3	85%	△
B	78.5	97.0	124%	◎
C	19.0	17.5	92%	△
D				
E				
F				

**④ 平成27年度施策の成果指標の達成状況及び要因**

- 「A 学校外活動を行う青少年育成団体に加入している児童・生徒の割合」は、目標値に達しなかった。その要因として、自治会未加入世帯の増加など、保護者の地域活動への参加意識の希薄化により、子ども会の会員が減少していることが考えられる。
- 「B 中学2年生のうち社会のルールやマナーを守っていると回答した生徒の割合」は、昨年度と比較して1.2ポイント上昇し、目標値を大きく上回った。その要因として、児童生徒の健全な育成を図るため、各小・中・高校とPTA連絡協議会・子ども会育成連絡協議会との協力連携が図られたこと及び、校内・校外における生徒指導等の充実が考えられる。
- 「C 青少年が他人に迷惑をかけるという行動が以前に比べて減ったと考える市民の割合」は、昨年度と比較して0.6ポイント上昇した。その要因として、補導員には反射ベスト、車両には青色回転灯を装備したことによって、青少年側からも分かりやすく、補導活動が、より強化されたことが考えられる。目標値に達しなかった要因としては、中学生、高校生の自転車の乗り方(二人乗り、右側通行、ヘルメットの未装着等)、公園等使用時のモラル不足などが考えられる。

⑤基本事業の 目標達成度  (平成27年度目標と 実績との比較)	○=すべての目標値を達成 △=一部の目標値を達成 ×=すべての目標値を未達成			
	①	体験と立志を支援する環境づくり	△	⑤
	②	地域全体で子どもを見守り育む環境づくり	○	⑥
	③			⑦
	④			⑧

6 平成28年度の施策の取組方針 (昨年度マネジメントシートより)	7 平成29年度に向けた施策の課題・方向性
<p>■「きりしまっ子立志10年カレンダー」については、アンケートの意見を参考に、デザイン等を検討し、より活用の充実を図る。立志塾については、今後も英会話を学ぶ宿泊研修を継続し、内容の充実を図る。</p> <p>■地域全体で青少年を見守る活動を奨励し、地域で育てる青少年健全育成事業を継続する。</p> <p>■心と体のバランスのとれた「きりしまっ子」を育てるために、本市の豊かな自然や伝統文化、産業、施設等多彩な素材を掘り起し、地域の魅力を再発見できる各種体験活動を行う。</p>	<p>■児童生徒が発達の段階に応じた夢や志を主体的かつ具体的にもつことができるようにするためにアンケートをもとに事業の改善を行い、事業の充実を図る。また、国の「子どもの貧困対策に関する大綱」を基に貧困の負の連鎖を断ち切るための学習機会を確保することを目的とした事業を新規に行うことができないか検討する。</p> <p>■地域で育てる青少年健全育成事業を継続し、青少年育成活動内容を広く周知することで、地域で育てる青少年健全育成事業参加団体を増やす。</p> <p>■心と体のバランスのとれた「きりしまっ子」を育てるために、本市の豊かな自然や歴史、地域に伝わる文化や伝統行事、地場産業などの特性を生かしながら、関係機関との連携を図り事業内容の検討を行い、より豊かな体験活動を行う。</p>

基本事業No.	4-2-1	基本事業名	体験と立志を支援する環境づくり	基本事業 主担当課	生涯学習課
---------	-------	-------	-----------------	--------------	-------

**1 基本事業の目的、取組み方針**

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）

- 「教育振興基本計画」に基づいて各種青少年育成事業を実施し、心と体のバランスがとれた「きりしまっ子」を育成する。
- 様々な資源を活用した体験活動プログラムの充実を図る。
- きりしまっ子立志推進事業を充実し、夢や志を持った子どもたちの育成を図る。
- 青少年団体への加入促進を図る。

②対象	青少年	③意図	・霧島の自然や産業、伝統文化等の様々な資源を活用した体験活動ができる ・夢や志をもつ ・青少年団体への加入を促進する
-----	-----	-----	--

**2 基本事業の指標等の推移** ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名	単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
				成り行き値	88.0	88.0	88.0	88.0	88.0
A 体験活動プログラムに参加し、満足した児童生徒の割合	%	参加者アンケート	目標値	89.0	89.5	90.0	90.5	91.0	91.5
			実績値	94.0	92.9	97.4	99.5		
			達成率	106%	104%	108%	110%		
			結果	◎	○	◎	◎		
B 将来の具体的な夢や志について考えたことのある中学生の割合	%	中学2年生へのアンケート	成り行き値		83.5	83.5	83.5	83.5	83.5
			目標値		84.0	84.5	85.0	85.5	86.0
			実績値	83.5	85.5	82.3	76.0		
			達成率		102%	97%	89%		
C 小学校1年生の子ども会加入率	%	加入申込書集計	成り行き値	88.0	87.0	86.0	85.0	84.0	83.0
			目標値	89.5	90.0	90.5	91.0	91.5	92.0
			実績値	86.8	82.1	81.7	76.7		
			達成率	97%	91%	90%	84%		
結果	○	△	△	△					

**3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠**

A 満足度の低い体験活動の内容を充実しながら、満足度の割合を、平成23年度実績値である88.5%から3ポイント伸ばすことを目標とした。  
 B 中学生の立志の心を育みながら、毎年0.5ポイントずつ伸ばしていくことを目標とした。  
 C 国分・隼人地区の加入促進を図り、加入率を0.5ポイントずつ増やすことで、平成21年度実績値である91.9%の水準に戻すことを目標とした。

**4 平成27年度基本事業の取組方針**      **5 平成27年度基本事業の取組方針の達成状況**

■体験活動のプログラムの改善や職員の指導力向上を図る。  
 ■志を育む事業を継続し、きりしまっ子立志10年カレンダーについては、デザイン及び活用方法を検討し、きりしまっ子立志塾については、国際感覚を養うことを目標にした内容を継続する。  
 ■引き続き、子ども会の加入促進を図るための手段を講じる。

■参加者のアンケートからニーズを把握し、新たなプログラムとして「親子でハイキング」「国際交流はじめの一歩」を行った。  
 ■「きりしまっ子立志10年カレンダー」を配布することで、児童生徒に将来の夢や目標について考える機会となった。  
 ■各地区で実施している事業を「おすすめ事業」として、他地区子ども会へも参加を呼びかけ、延べ2,068人の参加があった。本年度は、子ども会フェスティバルを開催し、レクリエーションとふるさと霧島カルタ選手権を実施した。(参加者189人)

**6 平成27年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因**

■「A 体験活動プログラムに参加した児童生徒の満足度」は、昨年度と比較して2.1ポイント上昇し、目標値を9ポイント上回った。その要因として、各種体験活動に実際参加した児童生徒は、どの体験活動にも様々な魅力を感じ満足していることが考えられる。  
 ■「B 将来の具体的な夢や志について考えたことのある中学生の割合」は、昨年度と比較して6.3ポイント下降し、目標値を9ポイント下回った。その要因として、学校では道徳や特別活動において自分の将来について考える時間を設定しているものの、家庭等において自分の具体的な夢や志について考える機会が不足していることや、夢や志を書き表すなどして意識化する方法が不十分であることが考えられる。  
 ■「C 小学校1年生の子ども会加入率」は、昨年度と比較して6.3ポイント下降し、目標値を14.3ポイント下回った。その要因として、自治会未加入世帯の増加や保護者の地域活動の参加意識の希薄化に加えて、上場地区を中心とした人口減少による子ども会組織の減少などが考えられる。

**7 平成28年度基本事業の取組方針**      **8 平成29年度に向けた基本事業の課題・方向性**

■小学生の参加割合が多いため、リーダーとしての中学生の参加率が向上するような方策を研究する。  
 ■志を育む事業を継続し、きりしまっ子立志10年カレンダーについては、アンケート調査の結果をもとにデザイン等を検討し、きりしまっ子立志塾については、国際感覚を養うことと夢をもち志を立てることを目標として、英会話を学ぶ「イングリッシュサマースクール」を継続する。  
 ■引き続き、子ども会の加入促進を図るための手段を講じる。

■関係機関等との連携を深めるなど、プログラムの充実を図り、より豊かな体験活動を実施する。  
 ■きりしまっ子立志10年カレンダーについては、活用方法の工夫を行う。立志塾については、ボランティア(学生・一般)の活用を図る。  
 ■霧島市子ども会育成連絡協議会総会や研修会等で、特色ある取組をしている子ども会の活動事例を紹介し、子ども会活動の活性化を図るとともに、地区自治公民館と連携した子ども会への加入促進に取り組む。

基本事業No.	4-2-2	基本事業名	地域全体で子どもを見守り育む環境づくり	基本事業 主担当課	安心安全課 生涯学習課
---------	-------	-------	---------------------	--------------	----------------

**1 基本事業の目的、取組み方針**

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）

- 家庭の教育力や地域の教育力の向上を図る。
- 子どもたちや保護者の地域行事への参加促進や、学校応援団事業の推進を図りながら、地域全体で青少年を育てようという気運を高める。

②対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年</li> <li>・家庭</li> <li>・地域</li> </ul>	③意図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会のルールを身につけ、守る</li> <li>・しつけを徹底する</li> <li>・青少年に関心を持って、あいさつや声掛けをする</li> </ul>
-----	--	-----	---

**2 基本事業の指標等の推移** ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
A	霧島警察署・横川警察署管内の不良行為少年数	人	霧島警察署「地域安全白書」、横川警察署「安全のしるべ」	成り行き値	400	400	400	400	400	400
				目標値	365	350	335	320	305	290
				実績値	369	376	355	191		
				達成率	99%	93%	94%	140%		
				結果	○	△	△	◎		
B	あいさつや声掛けを行っている市民の割合	%	市民意識調査	成り行き値		72.2	72.2	72.2	72.2	72.2
				目標値		72.7	73.2	73.7	74.2	74.7
				実績値	72.2	73.1	68.0	71.2		
				達成率		101%	93%	97%		
				結果		○	△	○		

**3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠**

A 平成23年度の実績値である367人をベースとし、警察との連携を図りながら、補導者数を5年間で290人まで減らすことを目標とした。  
 B 平成24年度の実績値である72.2%をベースとし、地域の教育力の向上を図りながら、毎年0.5ポイントずつ上昇することを目標とした。

**4 平成27年度基本事業の取組方針**      **5 平成27年度基本事業の取組方針の達成状況**

■地域ごとの取組に温度差があるため、市内全体に浸透するよう地域リーダーに対し働きかけを強める。  
 ■青少年育成センター指導員や補導員による巡回指導を充実する。

■市内全域の小・中学校を通じて、地域で育てる青少年健全育成事業の事業内容の周知及び参加団体を募ったところ、22の団体の参加があった。  
 ■青少年育成センター職員による街頭補導回数166回、補導員による街頭補導回数697回、センターへの教育相談39件、「通信うえのはら」を年5回発行し、青少年の問題行動の未然防止に努めた。

**6 平成27年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因**

■「A 霧島警察署・横川警察署管内の不良行為少年数」は、昨年度と比較して164人減少し、目標値を129人下回った。その要因として、校外補導を強化し、生徒指導主任研修会などを通じて不良行為の防止に努めており、その成果によるものと考えられる。  
 ■「B あいさつや声かけを行っている市民の割合」は、昨年度と比較して3.2ポイント上昇した。その要因として、あいさつ運動のモデル校が増えており、地域であいさつや声かけの習慣が広がっていることが考えられる。

**7 平成28年度基本事業の取組方針**      **8 平成29年度に向けた基本事業の課題・方向性**

■地域ぐるみで青少年を育てようという意識を高めるために、青少年健全育成組織の活動を充実する。  
 ■警察や関係団体等と連携しながら、青少年育成センター指導員や補導員による巡回指導の充実を図る。

■地域で青少年育成に取り組み、少しでも多くの団体が地域で育てる青少年健全育成事業に参加していただけるように、事業内容の周知を図る。  
 ■年々需要が高まっている小・中・高生とその保護者からの教育相談の充実を図る。また、青少年の育成に関係する機関及び団体との密接な連携のもとに、霧島市内における非行防止、また、非行化のおそれのある青少年に対しては早期に迅速な対応を行い、健全な育成を図る。